

項目	2 大学生への社会的支援体制について
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	<p>静岡県立大学では2週間に1度、生活苦の学生に食料の無償配布を行う「たべものカフェ」が実施されている。また、困窮学生の支援を行う「学生助けたいんじゃー」という有志の学生グループがある。</p> <p>1月14日に、同グループの活動報告会が県庁で行われ、ふじのくに県民クラブの議員、県の総合教育局が参加した。</p> <p>報告会では、昨年秋に「たべものカフェ」を利用した学生74名に対する聞き取り調査の結果が発表され、経済的な不安や孤独に悩む学生がいることが判明した。</p> <p>支援を通じ、学生の貧困はコロナ以前から存在した問題であることが明らかになり、改めて、学生の生活に対する継続的な実態調査や個別支援などの対策が求められる。</p> <p>同グループは、大学に対し、こうした学生を支援するために、学長をトップとする「学生の貧困対策委員会」を設置し行動計画を策定することや、キャンパスソーシャルワーカーを配置し、学生の困窮の実態を把握して、入学から卒業に至るまで、一貫したケアを提供する態勢を整えることなどを要望している。</p> <p>こういった要望に応えるためには、県内すべての大学に貧困学生を支援する機関の設置と専任のキャンパスソーシャルワーカーを配置する支援事業を行う必要がある。昨日の望月議員の答弁では、臨床心理士を配置している旨の答弁があったが、要望はあくまでも専任のワーカーの配置である。まずは、静岡県立大学及び静岡文化芸術大学において全国のモデルとして実践してほしい。このような事業が展開できるよう、県が予算化・事業化すべきであると考えているが、県の考えを伺う。</p>

<答弁内容>

大学生への社会的支援体制についてお答えいたします。

県立大学では、学生支援の中核を担う学生部、日常的に学生と接する学部・研究科の教員で構成する学生委員会、健康支援を担う保健衛生委員会が連携し、学生の状況についての情報を共有しながら、困窮学生の支援策に取り組んでおります。

具体的には、学生部長をトップとし、学生も参画する「学生ボランティアセンター」による「たべものカフェ」の運営や、寄附金を活用した返還不要の奨学金制度の創設を実現したところであります。今後は、学生の意見を取り入れる仕組みを検討するなど、困窮学生に対する支援を強化してまいります。

また、困難な状況におかれた学生の福祉面、精神面でのケアについては、精神保健福祉士1名と臨床心理士2名の計3名の専任のカウンセラーが、常時学生の相談に応じる体制を整えるなど、キャンパスソーシャルワーカーに相当する支援機能の充実を図っております。来年度には、新たに、学生自身がカウンセラーとして相談を受ける、

ピアサポート制度を導入するなど、相談体制の強化に取り組んでまいります。

意欲のある学生の学びを保障することは、全ての大学に求められる重要な役割であります。本議会でお諮りしております「大学生等学びの継続支援事業費助成」の積極的な活用を働き掛けるとともに、県立大学の先進的な学生支援の取組を、ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じて、文化芸術大学をはじめとする県内大学に広げることで、学生への社会的支援体制の強化を図ってまいります。

以上であります。

項 目	2 大学生への社会的支援体制について【再質問】
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	<p>この学生の問題については、コロナの緊急事態宣言が8月、9月に出された時に、私は大学課に足を運んで、病院や福祉施設への実習に行くためにバイトが禁止になっている学生がいる等の県立大学の現場の声を聞いてくださいとお願いした。</p> <p>また、県立大学では二つある学食のうちの一つが、もともと経営が大変だった上に、大学からの依頼によるコロナ感染防止のための一時閉鎖、オンライン授業の増加による学生の減などのため、撤退してしまった。</p> <p>全国的に見ると、他の大学では、安価なボリュームのある食事を提供しているところもあるが、県内ではまだない。</p> <p>退学する学生を一人も出さないためには、これまでの取組では不十分だと思う。ぜひ県として二つの県立の大学のモデルを実践してほしいと思うが、先ほどの答弁は実践するということが伺う。</p>

<答弁内容>

先ほどの答弁の中にありましたけれど、今の議会で「大学生等学びの継続支援事業費助成」について予算をお諮りしているところでございます。

この事業については、新たに追加で困難な状況におかれている学生の方を支援する事業でございます。事業の執行にあたっては、まず、なるべく早く執行することと同時に、学生の状況をしっかりと把握するということが学生の支援の向上につながると思っております。学生の状況の把握の仕方について、また2つの大学ともどういった方法が一番いいのか、またいろいろと検討してまいりたいと思います。より良い把握する体制に持っていきたいと思っております。それがひいてはモデル事業になると思っております。新しく強化した体制について、他大学に広げていくようなことが出来れば、非常に学生の支援体制の充実にもつながると思っております。

以上でございます。